

「第6回ライブ・エンターテインメント EXPO」

神谷 直亮

リード エグジビション ジャパンが主催した「第6回イベント総合 EXPO」「第6回ライブ・エンターテインメント EXPO」「第2回地方創生 EXPO」「第2回スポーツビジネス産業展」が、2月27日から31日まで幕張メッセで開催され、490社・団体が出展した。来場データについては、速報値として来場者数 25,872人、セミナー受講者 16,737人、プレス 188人との発表が行われている。

本稿では、映像センター、ブリッジリンク、エルテック、シネ・フォーカス、DESAY インテリジェント・テクノロジー (DESAY)、グローシャイン、ロケットサインなどが出展して盛り上がった「第6回ライブ・エンターテインメント EXPO」を中心にレポートする。

映像センターは、イギリスで開発されたビジュアルモーションコントロールシステム「Kinesys」と宙に舞う54台のムービングLEDパネル「Wing Panel」を駆使する華麗なデモを行って来場者の注目的

になった。「Kinesys」は、ビッグアーティストのライブで「巨大映像が自在に、空間で躍動する」システムとしてすでに採用されており「2018年紅白歌合戦の舞台でも使われた」という。ブースの担当者は、「このシステムには、トローリー、360度ローテーター、ロードスター、リフトキット、トラストなどが組み合わされており、Kinesys専用のソフトとコンソールですべてをコントロールしている」と語っていた。今回組み合わせた「Wing Panel」は、各ヘッドに60cmx50cmx48cmの小型LEDパネル(3.9mmピッチ)を搭載しており、スポットライトに連動した空間演出を行うことができる。映像センターは、この他に超薄型フレキシブル9mmピッチLED映像表示システム「Linx-9」を出展して「従来の18mmピッチのLinx-18よりもはるかに高精細な立体感溢れる映像表現が可能になった」とPRに余念がなかった。

ブリッジリンクは、球体型LEDディスプレイ「BL-Sphere」と屋内対応LEDデ

ィスプレイ「BL-3.9」を目玉にして出展した。同社が誇るユニークな「BL-Sphere」については、今回、直径1.8m、重量320kgのものを展示して「ドットピッチは4.8mm。単なるディスプレイではなく、オーディオ機能や手で球体の回転操作を行えるセンサーを搭載している」と説明していた。「BL-3.9」ディスプレイは、横15mx高さ4.5mの超大画面で再生デモが行われ来場者の目を見張らせた。メーカーとドットピッチを聞いてみたら「中国のユニルミン社製で、3.9mmピッチ」との回答であった。

エルテックは、「i-max Light 6w」をベースに4K8K HDRにブラッシュアップしたという大画面、高精細を誇る6mmピッチシースルーLEDディスプレイ「i-max Light 6w-m² (マーク2)」をブースの正面に設営して来場者を魅了した。画面サイズを確認したら「縦が12mで横が26m」と答えていた。

同社はこの他、フルカラー有機EL55インチ透過型ディスプレイ「i-Max OLED L055」とバルコの75,000センタールーメンDLPレーザープロジェクター「XDL-4K75」を紹介していた。「プロジェクターの世界が変わる」を謳った「XDL-4K75」は、Rec.2020カラー、最大120Hzの超高輝度ネイティブ4Kを実現できる。解像度とコントラスト比を聞いて見たら「4,096x2,160。2,000対1」との回答であった。



写真1 映像センターは、「Kinesys」とムービングLEDパネル「Wing Panel」を駆使する華麗なデモを行って来場者の注目的になった。



写真3 エルテックは、4K8K HDRに対応した大画面、高精細を誇る「i-max Light 6w-m² (マーク2)」シースルーLEDディスプレイで来場者を魅了した。



写真2 ブリッジリンクは、横15m高さ4.5mの超大画面による再生デモを行って来場者の目を見張らせた。



写真4 エルテックは、バルコの新製品「XDL-4K75」(75,000センタールーメンDLPレーザープロジェクター)を熱心に売り込んでいた。



写真5 Robycamは、4点吊りケーブルカメラシステムを紹介して来場者の関心と呼んだ。

シネ・フォーカスは、「見えないものを、可視化する」というテーマで、珍しい3Dホログラムのプロジェクション映像を前面に押し出して出展した。ブースに3mx2mの可搬型3Dホログラム演出ユニットを設営して、サイズ1m位の虚像を出現させたり消失させたりするデモを行い、一目見ようという来場者が引きも切らなかつた。担当者によれば、「このユニットは、堅牢なカーボンファイバー製フレームとホログラム再生用の特殊なフィルムで構成されており、短時間で設置できる」とのことであった。同社のブースでは、この他「Dreamoc」と名付けられたオールインワン型3Dホログラムディスプレイも展示され関心を呼んだ。デンマークのRealFiction社が開発したもので「商品の魅力を引き立て、消費者の注目を集めるのに最適な立体映像ディスプレイ」と売り込んでいた。

DESAYは、ハイエンドのHD XシリーズからクラシックなPシリーズまで17種のLEDディスプレイを紹介してその実力を誇示した。ブースの担当者は、「屋内、屋外用の通常のディスプレイはもちろんのこと、曲面ディスプレイ、透過型ディスプレイなどあらゆる要望に応えられる」と大風呂敷を広げていた。ブースで再生デモ行ったのは、Xシリーズの「X2.6i」(2.6mmピッチ)で、横6mx高さ3mであった。

グローシャインは、LCシリーズの「LC3.91-7.81」を出展して「+5度、-5度の範囲でディスプレイを曲げることができる」と強調していた。これに対しロケットサインは、「Mecanus」ブランドの屋内、屋外それぞれ4種のディスプレイを紹介した。屋内用は1.95から3.9ミリピッチ、屋外用は2.6から4.8ミリピッチの製品を揃えている。試作品のようであったが、驚異的な1.9ミリピッチの屋外用小型ディスプレイのPRも行っていった。

変わったところでは、Robycam、Magnimage Technology、JCGの展示とデモが目についた。

Robycamは、4点吊りケーブルカメラ

システムを紹介して来場者の関心を呼んだ。ヘッドは、3軸ジャイロスタビリゼーション機能を有し、360度無制限連続パン回転を実現する。重量は、ドローとバッテリー込み(カメラ含まず)で15kgとのものであった。ドローンとの違いについては、「ドローンは、コントローラーによる無線通信システムを使っているが、Robycamはコンピューター制御と光伝送を駆使するシステム。具体的には、4点吊りパワーロープと4個の自動ウインチで稼働する」と説明していた。

Magnimageは、18.5インチのHDタッチスクリーンを備えたイベント・コンソール「MIG-H-6」、シームレス・スイッチャー「MIG-V6」、8Kx2Kビデオプロセッサ「LED-W4000」を出展した。いずれも初めて見る中国製であった。ブースの担当者は、「LED-W4000は、DVI、HDMI、DP、SDIインポートポートを備えており、8Kx2Kモザイクアウトプットを実現する」と語っていた。

JCGは、eスポーツのプロフェッショナル集団で、eスポーツの企画、制作、ゲーム大会などを手掛けている。同社の強みは、高輪台スタジオを所有し、ワンストップに大会やイベントを行える体制を整えている点にある。初出展となった今回も、ミニステージを設営して独自のJCG大会を開催していた。

「ライブ・エンターテイメントEXPO」の会場を回った後、少し時間があつたので、隣に設営された「スポーツビジネス産業展」を覗いて見たらNHK、富士通、NECなどがブースを構えていた。


NHKは、300インチの大スクリーンと4Kプロジェクター4台


を駆使する8Kスーパーハイビジョンシアターを特設して、「NHK杯女子フィギュア2018」や「第69回NHK紅白歌合戦」のダイジェストを上映していた。

富士通は、「スタジアム・アリーナ」「センシング・AI」「デジタルマーケティングソリューション」の3つのステージを設けて、スポーツビジネスに多角的に取り組んできた同社の実績を誇示した。特に、Bリーグオールスター戦のパブリックビューイング(PV)「B・Live」の模様を再生して見せて来場者の注目を集めていた。この高臨場感を謳った8KによるPVは、今年1月にスカパーJSATなどが協力して実現したもので、「32:9のワイドなメーンスクリーン、7.1チャンネルの音響で提供した。富山の会場から品川のPV会場までの映像伝送には、富士通のリアルタイム低遅延コーデックが使われた」とPRに余念がなかつた。ブースには、この映像伝送装置「IP-HE950」が展示してあつた。

NECは、東京オリンピック・パラリンピックで史上初の採用が決まった顔認証システムを紹介した。「アスリート、運営スタッフ、報道関係者など約30万人の本人確認を厳格かつスムーズに行わなければならない」と、ブースの担当者は気を引き締めていた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト






HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

http://www.bizsat.jp

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下(地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.